

“意思を伝える”学習単元 でのiPad活用

飲み物を教材とした単元での
コミュニケーション指導の取り組み

香川県立高松養護学校 佐野 将大

対象児童・生徒



	A児	B児
○学年	小学部 6 年生男子	中学部 2 年生男子
○障害名	知的障害と脳性まひ 視覚障害（眼鏡装用）	知的障害と脳性まひ 自閉症の傾向がある
○障害と 困難の内容	発語は「あ、ぱ、だ」 簡単な言葉を理解 嫌なときには、無言・ 泣くなど	発語は喃語 簡単なカードを使用 嫌なときには泣くなど

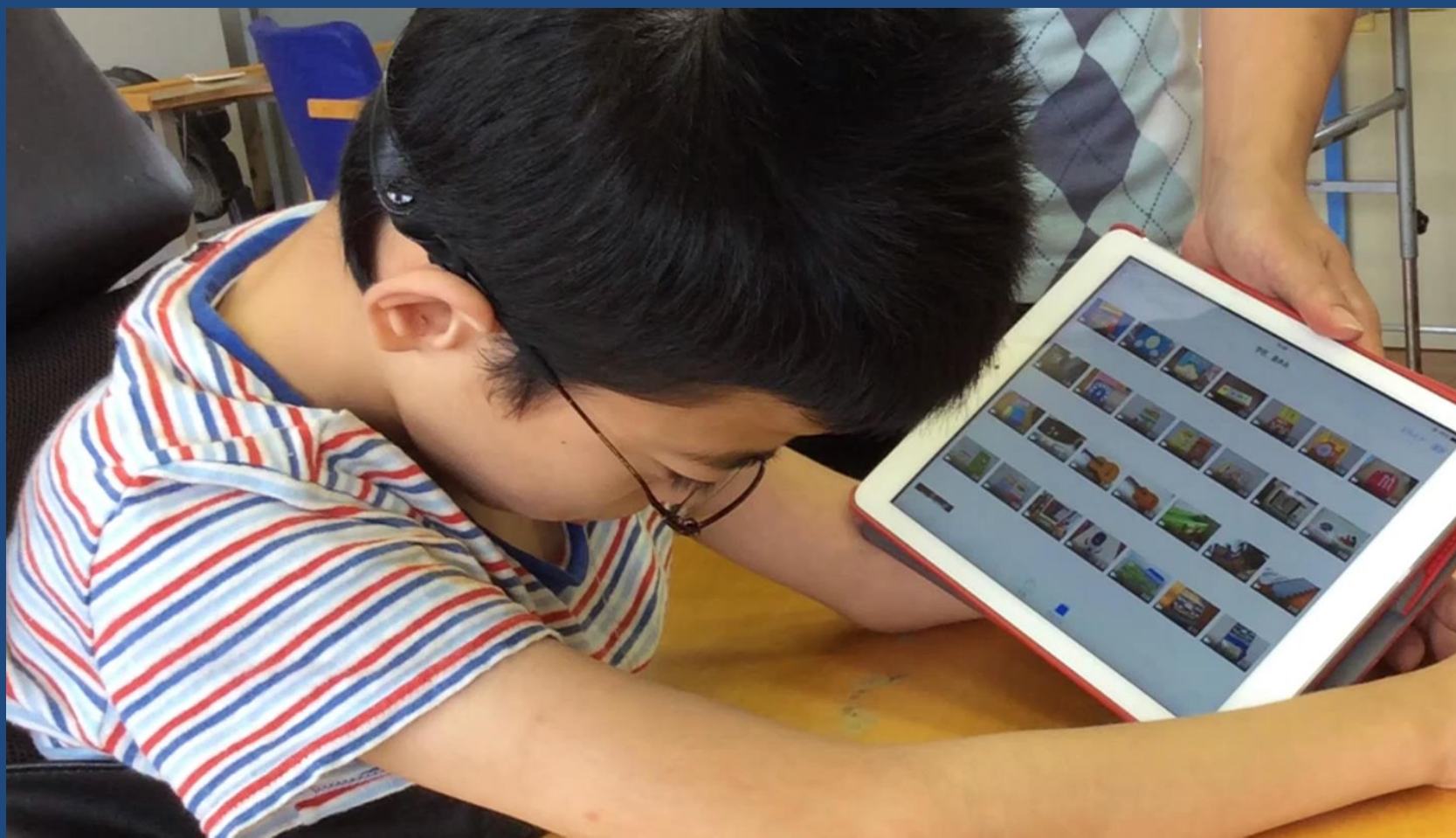
単元のねらい

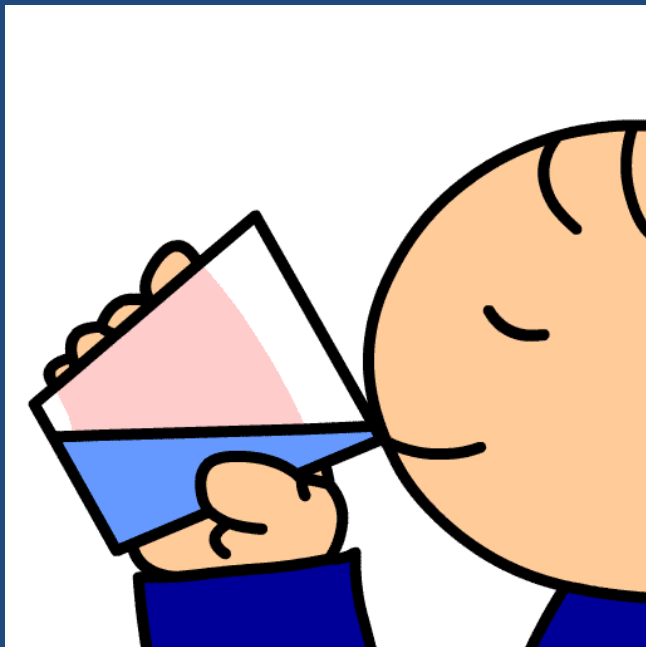
意思の確認方法の精選
『飲む・飲まない』を伝える力の育成



飲み物を教材とした学習単元を計画し
保護者と連携しながら進める

昨年の実践

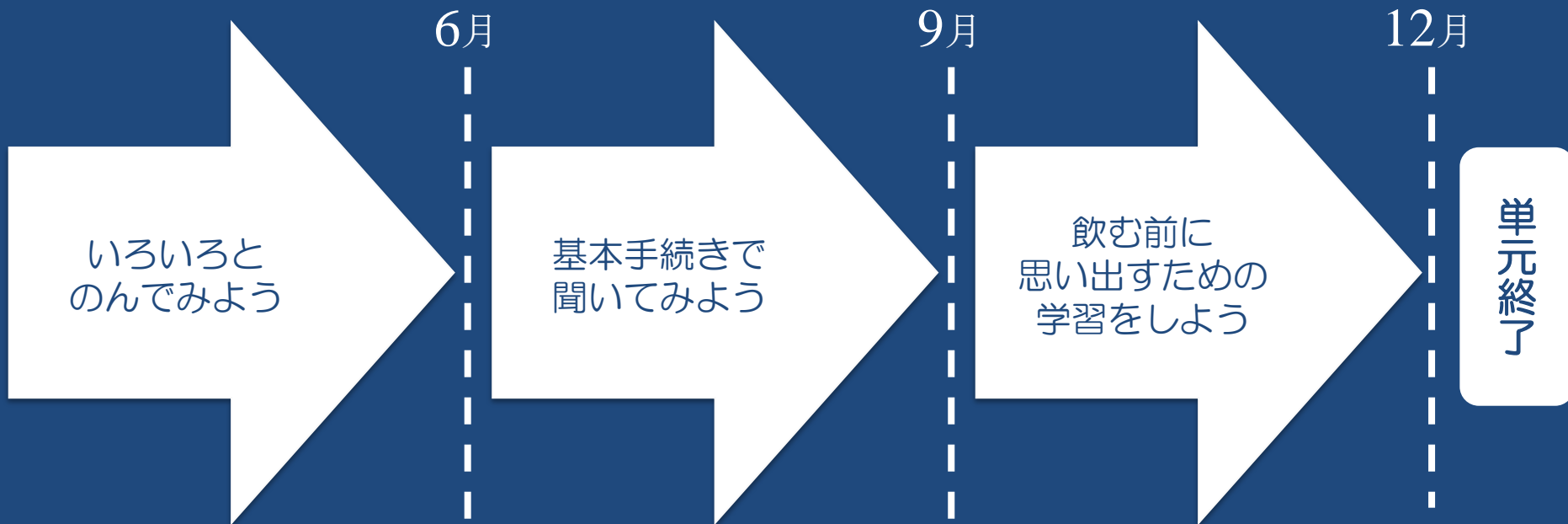




おもちゃじゃなくって
飲み物でしてみたら？

好きな飲み物、
飲めていますか？

指導の経過



学習会・検討会



- 飲み物記録
- 飲ませ方記録

⇒基本手続きの作成



飲む前に思い出すための手立てとして iPadを活用

いろいろとのんでみよう (A児)

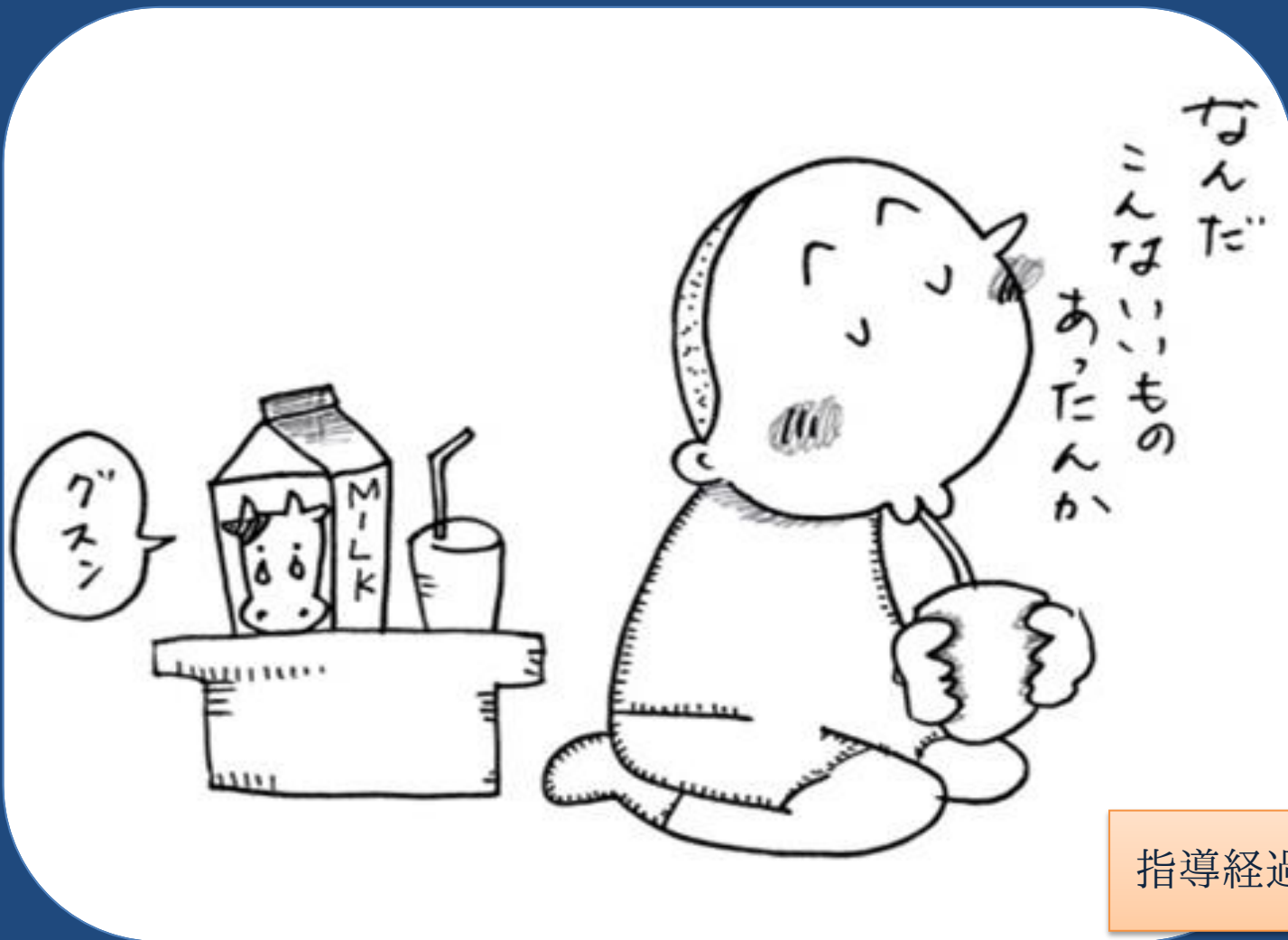


※撮影はご遠慮ください

繰り返し飲んでしまう事件 (A児)



牛乳飲まなくなる事件（B児）

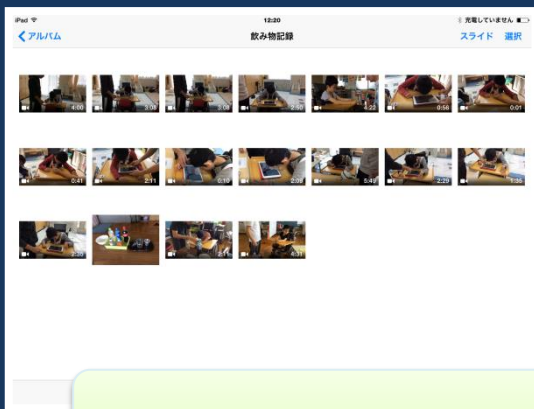


指導経過へ

ビデオをみて振り返る



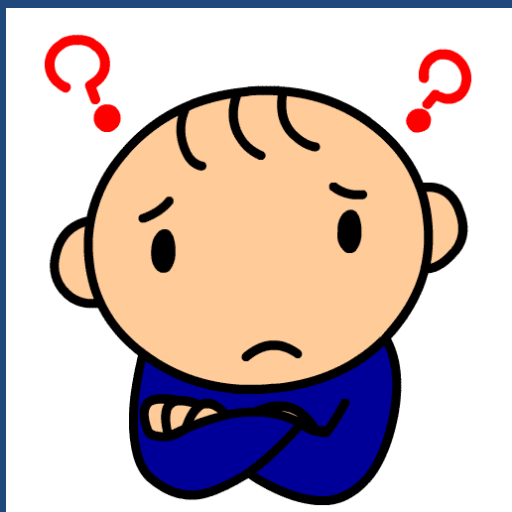
飲んだ飲み物の記録



意識の確認方法の記録

『飲み物の好き・嫌い』を
確認するためには？

出てきた意見（抜粋）



- のどが乾いているだけ？
- 飲んだことがないのでは？
- 見て分かっているの？
- 見せ方や順番は？
- 飲むペースで、判断していいの？
- 手を伸ばさず、って信頼していいの？



・・・っていうか、『好きか嫌いかわかるの？』

もしかして

「好きか嫌いか」を確認するのではなく
「今、飲むか飲まないかを聞き取ること」しかできないんじゃないの？



飲むか飲まないかを聞き取るための基本手続き（案）

- ・目の前で透明のコップに注ぎ、一口飲ませる。
- ・そのまま二口目を、見えて匂いが分かる場所で提示して、待つ。

指導経過へ

基本手続きで聞いてみると（A児）



一口飲んだあと トマトジュースを
じっくりと提示してみました

※撮影はご遠慮ください

基本手続きで聞いてみると（B児）

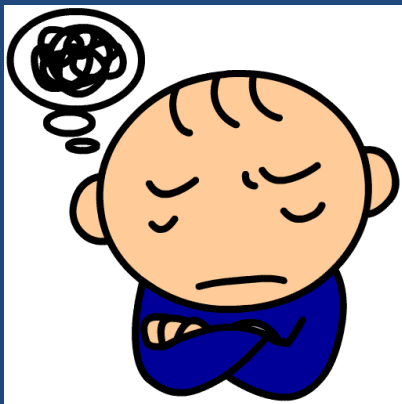


一口飲んだあと コーヒーを
じっくりと提示してみました

※撮影はご遠慮ください

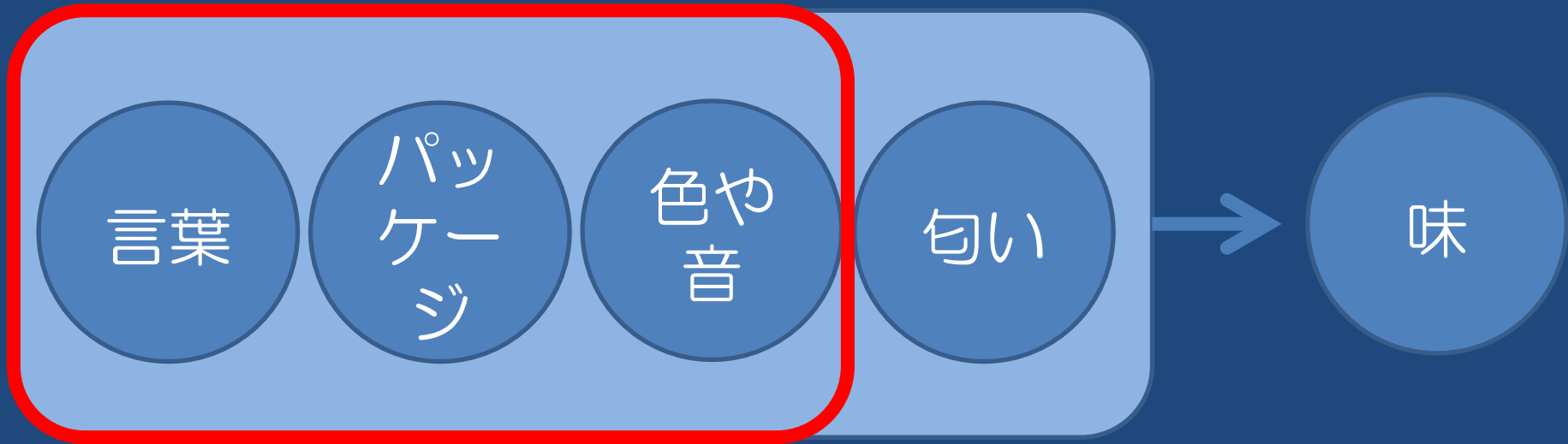
指導経過へ

飲む前に思い出せるように



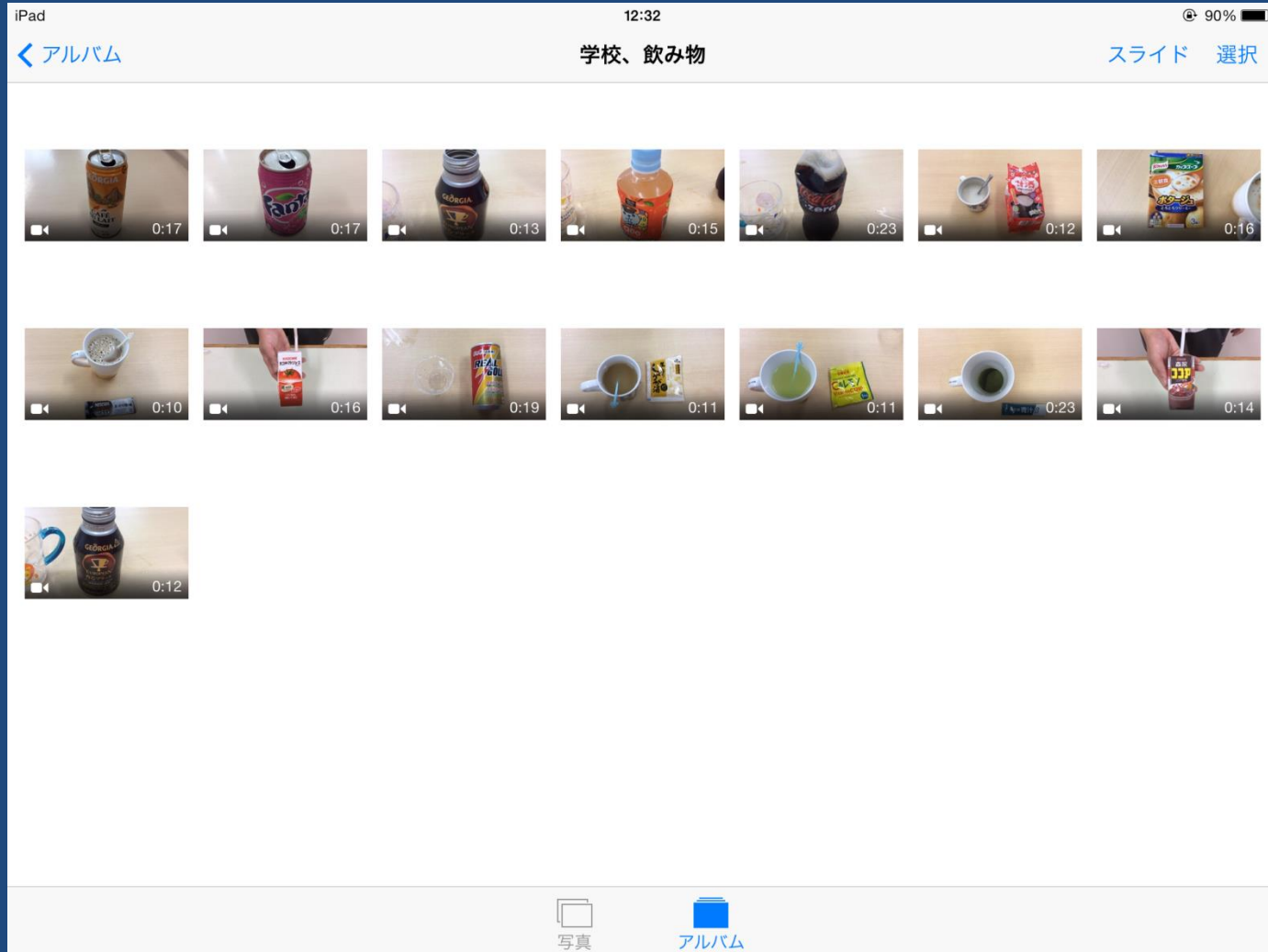
飲み物のパッケージではなく、そのジュースがもっている雰囲気（色や音）を繰り返し伝えたい。言葉も聞かせたい。思い出しやすくするために、「今から伝えよう」ということが分かりやすい方法が良い。場所を選ばず、パックを開けなくても伝えられたらなお便利・・・。

iPadで提示すれば



- ・ iPadを提示することで、「今から伝えるよ」ということを伝えられる。
- ・ いろいろな場所で繰り返し使える。
- ・ いつも同じトーンで提示できる。

このような動画を準備しました



トマトジュースのむ？ (A児)



カフェオレのむ？（B児）



指導経過へ

飲む前に思い出す学習の手順

A児

言葉の学習として

①iPadで予告



基本手続き [※]

②目の前で注ぎ一口飲み、待つ



B児

意思を伝える学習として

①iPadで提示したものに要求・拒否



基本手続き [※]

② //



言葉の学習場面の様子（A児）



※撮影はご遠慮ください

家庭での練習場面の様子（B児）



カフェオレで、サインが出るまで待つ練習

指導経過へ

※撮影はご遠慮ください

単元終了後の様子



A児

動画1つを提示して、飲むかどうかを聞くと、準備した飲み物は全て飲んだ。二口目で拒否した飲み物は無かった。

2つの動画を順番に提示して聞くと、どちらか一方を選んで、飲んだ。その日は何回聞いても、同じもので返事する。

B児

明確な要求と拒否のサインを使ったやりとり場面の設定が、家庭でもできたことで、保護者が少し待てるようになった。

今、好きな飲み物はカフェオレなのかもしれない。でも、本当にそうかどうかは、本人が知っているのかな。

保護者の感想

- 経験させていないことに気がついた。
- 飲ませてみると、分からなくなった。
- 思い込んで聞くことはだめだと思った。
- 好きか嫌いか、分からなくてもいいのではと思うようになった。
- 子どもの表現は、想定外だった。
- 年齢に応じて、いろいろ聞いてみたい。

実施者の感想

- 好きかどうかは、必ずしも把握する必要はないのでは。
- 支援者は、“聞き取りが適切かどうか”ということだけでいいのではないか。
- 子どもに力があれば、好き／嫌いは、子ども本人が辿り着くのではないか。
- 支援者は、その様子をまた観察しておけば、いいのではないか。

この実践とiPad

- 学習記録として有効だと感じた。
- “やりとりを振り返ってみる” ツールとしても、簡単に有効だと感じる。
- この実態の児童にとっては、「言葉の学習」「意志の伝達の学習」をするときに、実物ではない選択肢の提示方法の1つとして可能性があるのではないか。

いろいろな子どもが勉強するとしたら

- iPadは、“学習記録”と“やりとりを振り返る”ためのツールとして位置付くのではないか。
- iPadを教材として活用する方法はまだ検討が必要である。
- 飲み物という単元は、「教科」のように多くの子どもに共通のノウハウで教えていける可能性を感じた。

今後に向けて

- 重度の障害があるお子さんとのコミュニケーションは、家庭と連携していくことがとても重要であると感じた。
- まずは、専門家として、適切な関わりをアセスメントする力を高める必要性を感じた。
- そうすることで、適切な関わりを保護者に伝えていくことができるようになるのではないか。

ご静聴ありがとうございました